

令和5年度学校経営計画に対する最終評価 報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 GIGA スクール構想の ICT 機器等を活用した個別最適な指導（個別化）と学習（個性化）を改善・向上させ、基礎・基本の定着を更に図るとともに、授業のユニバーサル化（視覚化・音声化・焦点化・共有化など）を一層推進することで、主体的に学習しようとする態度を育む。	① 視覚化・音声化・焦点化・共有化などのユニバーサルデザイン化の観点を取り入れた個別最適な授業を行う。	教務課 全教職員	「ユニバーサルデザイン化の観点を取り入れた個別最適な授業・指導ができています・ほぼできています」教職員の割合が、 A 100% である B 80% 以上である C 70% 以上である D 70% 未満である	A	GIGA 校内研修を重ね、ユニバーサルデザインを意識した教材が有効であるとの共通理解が進み、各教員が工夫を凝らした教材を使って授業を行った。教員への自己評価アンケートでは、「できている」が25%、「ほぼできている」が75%であった。生徒へのアンケート結果からも、「スライドなどが参考になる」87%、「わかりやすい授業」86%という評価を得た。ユニバーサルデザインを意識した授業展開が標準化しており、今後も互見授業等をとおして授業改善を図る。
	② ICT機器の効果的な活用や協働を促す授業を行う。	教務課 各教科	「主体的に授業に参加できている・ほぼできている」生徒の割合が A 85% 以上である B 65% 以上である C 50% 以上である D 50% 未満である	B	生徒への授業評価アンケートによると、「授業に意欲的に参加できている・ほぼできている」と回答した割合は、前期75%、後期83%であった。 来年度は、教員の研修を進めることにより、ICT機器（Chromebook 等）をさらに有効活用し、主体的に授業に参加できる生徒を育てていく。
<p>学校関係者評価委員会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル機器を使った指導方法は生徒の興味・関心も高いと思われるので、先生方の研修も含めて、更なる向上をお願いしたい。</li> <li>今後も教育機器の積極的活用を図りつつ、「あるから使う」式から、この場面こそ有効だという教材教具の発掘を、教科の専門性を超えた互見授業等を通して取り組んでいていただきたい。</li> </ul>					
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒に対して、一人一人丁寧に指導し、誰も取り残さない教育のためのICT機器に関する研修に精進する。</li> <li>定時制通信制高校県内7校の相互授業参観による有効的なICT機器の活用方法の研修、ICT支援員と協力した校内GIGAスクール構想の研修など、研修の向上・充実を行う。</li> <li>GIGAスクール構想のもと、有効的な活用場面を想定し、生徒のタブレット等の活用力、情報発信力、意見交換力を高める。また、授業のユニバーサルデザイン化の観点から、今一度授業を点検し授業作りを丁寧に行う。</li> </ul>					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 学校生活全般を通して必要なルールやマナーの定着を図るとともに、集団活動の中で役割を担うことと自己肯定感を高める	① 各種教室（非行防止教室、防犯教室など）の開催により、生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	生徒指導課	「ルールやマナーを守って学校生活を送っている・ほぼ守っている」生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A	生徒指導に関する生徒への意識調査では「ルールやマナーを守って学校生活を送っている」と回答した生徒は40.9%、「ほぼ、ルールやマナーを守って学校生活を送っている」と回答した生徒は59.1%であった。 引き続き携帯電話を預けるなどの指導や各種教室などを通して生徒の規範意識の高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識することに繋がるよう努める。
	② 学校行事や生徒会活動等への参加により、集団の一員としての自覚を持ち、自己肯定感を高める。	生徒指導課	「学校行事や生徒会活動等に参加し、自分の役割を果たした・ほぼ果たした」生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B	生徒指導に関する生徒への意識調査では「自分の役割を果たしたと感じている」と回答した生徒は31.8%、「ほぼ、自分の役割を果たしたと感じている」と回答した生徒は50.0%であった。 学校行事において、キャリアパスポート、振り返りシートの取組をとおして行事の意義を理解し、積極的に参加するなかで自己肯定感を高めた生徒が多くいた。次年度も自己肯定感の高まる行事を継続や働きかけに努める。
	③ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、毎日の生徒情報交換会・個人面談・アンケート等を実施することで、いじめを未然防止する。	生徒指導課 全教職員	「いじめを未然防止する取組をとおして、生徒の現状を理解し、十分成果を上げている・ほぼ上げている」教員の割合が A 100% である B 87%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A	いじめを未然防止する取組を通して、生徒の現状を理解し、「十分成果を上げている」と回答した教員が100.0%であった。教室等で友人との関わり方の相談をする生徒はいるが、生徒からのいじめの訴えや報告はない。 引き続き毎日の教員間での情報交換や生徒への声かけ、相談しやすい雰囲気づくりなどを通して未然防止・早期発見解決に努める。

学校関係者評価委員会の評価

- ・いじめの訴えや報告が無かったのは良いことだと思います。先生方も、より一層それぞれの生徒へ目を配っていただきたい。
- ・行事や授業での話し合い等で協同作業の場面を増やしていただきたい。
- ・社会の一員である、一人ではないと思ってもらえると良い。
- ・定期と随時の情報交換を継続して生徒理解に努めて欲しい。

学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策

- ・毎日行う全教員による生徒情報交換会（情報共有、課題解決など）、日々の観察や声かけなどを通して、生徒一人一人の変化を見逃さない。
- ・わかった・できた・褒められた・協力しあえたと成長を実感できる協同作業の場면을再構築し、自己肯定感を高める。
- ・様々な不安や課題に対して、学習支援、社会的支援、福祉的支援、医療的支援などを行い、一人でない安心感を持たせる。
- ・授業、生徒情報交換会、日々の観察や声かけなどを通して、鋭意生徒理解に努める。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）		
3	キャリア教育を推進する中で、社会人として必要な人間力や望ましい勤労観・職業観を育成し、個に応じた進路実現のための指導の充実を図る。	①	進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路指導課	「進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を持つことができた・ほぼできた」生徒の割合が A 85%以上である B 65%以上である C 50%以上である D 50%未満である	A	「いしかわ企業人インタビューDVDの視聴」、「定通企業ガイダンス」、「社会保険労務士を招いての進路講話」、「今年度の求人票の教室掲示」、「2度の進路希望調査後の面談」など、生徒の進路意識向上を目指してきた。 行事後のアンケートでは、全員が勤労観・職業観を持つことが「出来た」か「やや出来た」と答えた。 次年度も意識が高まる行事を継続し、生徒個々に応じたきめ細かい進路指導に努める。
	②	教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に務めると共に、会員企業に依頼し、企業見学等を実施する。	総務課	希望する生徒に、会員企業で企業見学等を実施することができた割合が A 100%である B 65%以上である C 50%以上である D 50%未満である	C	本校教育振興会の会員企業に企業見学等の受け入れを依頼したところ17の会員企業から受け入れ可能の返事をいただいた。卒業予定者以外の生徒に受け入れ可能の会員企業を提示し、希望調査を実施したところ2名の生徒が企業見学を希望した。2名の生徒の希望を聞きながら夏休み期間に3企業の見学を実施した。当日、1名が体調不良で欠席し1名だけの見学になったが、実際に作業をしている現場を見学することができ、大変参考になったという感想を聞くことができた。	
<p>学校関係者評価委員会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調不良で欠席した1名について、事前に予備日を設定したり、後日見学を行ったり等の対応が必要であると思う。</li> <li>・企業見学希望者が2名だったの样だが、より多くの生徒が参加しやすいような工夫ができると良い。</li> <li>・進路についての学習と体験を適時に位置づけて、正しい勤労観・職業観を培って欲しい。</li> </ul>							
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予備日・別日を設定し、欠席した生徒が見学をできるようにする。</li> <li>・半数を超える生徒がアルバイトを行っており、インターンシップに消極的な傾向も見られるので、インターンシップの目的の一つである「社風が自分に合っている」、「やりたいことができる」、「ここで働くイメージができない」、「自分の個性や特性を活かせない」などを実体験できる良さを再認識させるとともに、自ら企業を選択できるようにする。また、地元の企業を経験することで地元で働くことの良さを自ら考えさせる。</li> <li>・目標とすべき将来の生き方や進路を考えさせ、それを実現するために、学習と体験を関連付けて指導し、勤労・職業に必要な能力・態度を育成する。なお、多様な生徒に対して、生徒一人一人への提示の仕方を今まで以上に工夫して意識づけを図る。</li> </ul>							

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 家庭や地域と連携した健康教育を推進し、健康安全指導の充実を図る。	① 計画的に健康安全指導の充実を図る。 ② 食育をとおして食の知識を身につけるとともに、食生活を改善するよう指導する。	保健 厚生課  各担任	「各種の健康や安全に対する取り組みが生活習慣の改善に役に立つ・ほぼ役に立つ」と思う生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A	11月に歯科医による歯科保健指導の講演会（講義及び歯みがき実習指導）を実施した。事後に行ったアンケートの結果、受講した全員が「講演会はよかった・ややよかった」、また「学んだことが今後役に立つ・やや役に立つ」と回答した。 次年度も生徒に正しい知識や技術を伝え、生徒自ら健康で安全な生活を実践しようとする意識の向上を目指す。
<p>学校関係者評価委員会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育や歯科に関する事柄は、健康作りや落ち着いた生活の基礎であり、大変重要な事柄であるので、これからも継続的な指導をお願いしたい。</li> <li>・歯の大切さや、良い内容の食事の必要性など役に立つ講演会であったと思う。</li> <li>・講演会等による説得力のある科学的知見と、例えば「自分でも簡単に作れる栄養満点の朝食づくり」のような、より日々の実践に半歩でも前進させるような取組みを工夫していただきたい。</li> </ul>					
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育指導、歯科保健指導、生活調査による生活改善指導など、鋭意継続する。</li> <li>・講演会による指導は、生徒の生活改善に対する意識を大変向上させるので、鋭意継続する。</li> <li>・定期的なアンケートを通して、実態把握に努めていくとともに、日常的な声かけ指導を続けることで、本人の意識と生活習慣を改善させる。</li> </ul>					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	
5	ワークライフバランスの視点を意識し、効率的な校務運営を推進することで、メンタルヘルスの保持増進に努める。	① 書類・データ等の整理整頓を行うと共に、重要度と緊急性の観点から優先順位を決める。 ② お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行する。	全教職員	「お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できた」教職員の割合が A 100% である B 87% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	A	・教員8名を対象に、「お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できたかどうか」を聞いた結果、「よくできた」と回答した教員が75%（昨年度38%）、「まあまあできた」と回答した教員が25%（昨年度62%）であった。 ・今後さらにICT機器等を活用して事務的作業の効率化を図り、自らの業務に対して改善の意識を持ちながら職務遂行にあたる。

#### 学校関係者評価委員会の評価

- ・生徒数がここ3年間で、倍増しているのに教員数があるままということなので、先生方にはオーバーワークにならないようにしていただきたい。
- ・震災もあり、先生方も例年以上に多忙であると思う。効率化を図れるところは改善して業務を行って欲しい。
- ・職員数も少なく、校務が重なったり、出張も多くなったりと大変だと思うが、メインとサブで互いに協力し合い、無理せず頑張ってもらいたい。

#### 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策

- ・生徒数が増えて、授業の他に多様な状況への対応も増えているので、外部機関と連携したり支援を鋭意受けたりして、業務の軽減を図る。
- ・震災による、心身の負担増は確かにあるので、教職員全員で協力しながら、チーム七尾城北として業務を行う。
- ・校務分掌の役割分担に固執せず、特定の教職員に業務が集中しないように、業務の分散を行う。
- ・教職員の心身の健康維持のために、年休・特別休暇・振替など、遠慮せず適切に取得してもらおう。

#### 【その他のご意見】

- ・生徒数が増えているということは、地域での学校の存在意義が高まっているということである。生徒には学校生活において最善を尽くせるように指導をお願いしたい。

#### 【その他のご意見に対する今後の改善等】

- ・地域での本校の存在意義が益々認識され、地域の児童生徒の確かな学びの場としての信頼が高まるように、鋭意精進する。
- ・生徒が学校生活において最善を尽くせるように、心の安定を図り適切な学習支援と集団生活の中で人間関係をより良く保つ力を鋭意育成する。